



学習と交流の強化を！

青年部、女性部に期待！

国労本部で発行している「国鉄新聞」及び、東日本エリア本部の「NRU-east」に青年部と女性部の活動報告の記事があったので、取り上げてみました。私たち国鉄世代がいなくなっても、きっとこの若い世代が労働運動の火を守ってくれる

だろうと、本当に頼もしく読ませていただきました。

まず率直な感想ですが「自分もここに参加し、青年たちの生の声を聞きたかった！」です。

労働運動に必要なこと・・・勿論色々ありますが、忘れられがちなのが「学習と交流」ではなかったかと考えてきました。

自分たちの足元をしっかりと見る、あるいは守ることも大切ですが、各組合の伝統だとか、こだわりだとか、そればかりになってしまうと、回りが見えない独りよがりの組合、あるいは各個人の偏った思想に陥ってしまう気もします。

幸いにも国労千葉地本では、共闘団体と共に、年数回の集会時に労働講座が開催されており、頭の良くない自分にとっても、非常に身のある学習をしてこれたと感謝しています。

また、現在は中断している京成労組との交流会も大変貴重な場でありました。

全国中の労組の皆さんには、是非、自分たちの議論だけでなく、幅広く定期的に学習会、交流会を展開して行ってほしいと今回改めて思いました。

しっかり出ている

青年たちの本音の声！

昨年12月の「JR 世代学習交流会」では、青年たちの声がいっぱい出ていたようです。

おじさんたちには耳の痛い「エルダー組合員は辞めることしか考えてない」や、「加入させたことで、負担を増やしてしまったのでは？」等々、弱い部分も共有し合っただけの議論、大変勉強になりました。

うたてつ ノススメ[®]

北国列車 (風) 1976年1月

僕が君を追いかけてる
夢から目覚めた時は
汽車は夜を走り続け
朝の駅へ着いたところ

* 君を忘れるため 長い旅に出て
旅の終りにこの街を選んだ
去年の今頃 汽車に乗り
二人で旅した北国の
あの雪の白さが何故か忘れられず
*

僕他にはあと少しの
人を降ろしただけ
汽車はすぐにまだ暗い
朝に消えて行った

思い切り背伸びをした薄暗い空に
君の星座がまだ光ってる
君の生まれたあの星が
こんなにきれいに輝いて
君と暮らした東京では
見たことなかったけれど
* くりかえし *

かくや姫解散後の伊勢正三と猫に
いた大久保一久が結成したフォーク
デュオの2nd アルバムの1曲目に収録
された曲。詞曲ともに伊勢の作品。

久しぶりに歌詞を見ながら聴いて
みた。冬の朝の情景と男の心情がよく
表されていて、詞と曲がマッチして
いる。恋に破れた男は、思い出を
振り切るために旅を繰り返したが、
行き着いたのは、二人で訪れたこと
のある北国の町だった。でもそれは
未練ではなく、むしろきれいさっぱり
断ち切れそうな「思い切り背伸びを」
に表されているように思う。

今回「君の星座」というワードが
気になったので考えてみた。そのあ
とに「君の生まれたあの星」とある
ので、誕生月の星座で冬に見える星
座ということで、おうし座か、ふた
ご座ではないだろうか。いやあ、ロ

マンチックだけど、このさりげなさ！さすがだ。失恋すると、北に向かって旅をするという鉄道ソングの王道のような名曲。何となく「なごり雪」の続編としてつながってるような気もしてきた。これもよく歌ったなあ。